

# 令和5年度 災福ネットセミナー

期 日 令和6年2月15日

開催方法 オンライン(Zoom)

主 催 長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会(災福ネット)

共 催 社会福祉法人長野県社会福祉協議会

長野県社会福祉法人経営者協議会

## 日 程

14:00	開 会 ○ 長野県災福ネット幹事 長野県社会福祉協議会 常務理事 竹内 善彦	
14:05	◆ 能登半島地震 福祉支援活動の概況  ・ 厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 課長補佐 清水 修 氏  ・ 長野県ふくしチームの活動経過 橋本昌之（長野県社会福祉協議会）	
14:35	◆ 支援現場からの報告  災害支援ナース 石井絹子氏（長野県看護協会） 「1.5次避難所」支援 甲田孝子氏（長野県介護福祉士会） 能登町「避難所」支援 松谷 学氏（大桑村社協） 能登町「福祉避難所」支援 高橋哲也氏（賛育会豊野事業所）  ○ コメント ・ 小早川 義貴 氏	<コメンテーター> 独立行政法人 国立病院機構本部 DMAT 事務局 災害医療専門職・福 島復興支援室  小早川 義貴 氏  <コーディネーター>
15:35	◆ 信州から能登へ 私たちにできる支援を考える  ○ 動画メッセージ「長野の皆さん 引続きの応援を！」 ・ 石川県能登町健康福祉課 千場課長補佐  ○ 息の長い支援を！ ・ 鈴木よし子氏（長野県介護福祉士会会長、ふくしチーム員） ・ 勝山淳一氏（長野市社会事業協会、ふくしチーム員） ・ 山崎博之（長野県社会福祉協議会、DSAT担当）	NPO 法人さくらネット 代表理事 長野県社協 防災福祉 アドバイザー  石井 布紀子氏
16:00	◆ 閉会	

# あいさつ

長野県災福ネット 幹事

長野県社会福祉協議会 常務理事

竹内 善彦

## 長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会（災福ネット）

総会

【行政等】

長野県・長野県市長会・長野県町村会・長野県共同募金会

### 【県の福祉団体等】（災害派遣福祉チームを構成する団体）

長野県社会福祉法人経営者協議会	長野県救護施設協議会	部会
長野県高齢者福祉事業協会	長野県老人保健施設協議会	
長野県宅老所・グループホーム連絡会	長野県身体障害者施設協議会	
長野県知的障がい福祉協会	長野県社会福祉士会	
長野県児童福祉施設連盟	長野県精神保健福祉士協会	
長野県介護福祉士会	長野県医療ソーシャルワーカー協会	
長野県介護支援専門員協会	長野県看護協会	
長野県相談支援専門員協会	長野県助産師会	
長野県社会福祉協議会	長野県保育連盟	
	長野県栄養士会	

## “災福ネット”の目指すもの

### ① 福祉事業間の相互応援



- 事業所間の災害時応援協定の促進
- 「福祉避難所」の備えの促進

### ② 災害派遣福祉チームの養成



- 「長野県ふくしチーム」の養成
- 県、市町村の防災訓練への参加等

### ③ 福祉団体間の連携



- 各福祉団体ごとの災害福祉支援の取り組み状況の把握、連携の促進

# 概況報告

---

## 『令和 6 年能登半島地震 福祉支援の概況』

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 課長補佐 清水 修 氏

# 信州から能登にあたたかな福祉支援を！

## ・長野県災福ネットの取り組み

長野県災福ネット事務局  
長野県社会福祉協議会 橋本昌之



1

## 災福ネットとは

### 長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会（災福ネット）

**総会**

【行政等】

長野県・長野県市長会・長野県町村会・長野県共同募金会

### 【県的福祉団体等】（災害派遣福祉チームを構成する団体）

長野県社会福祉法人経営者協議会  
長野県高齢者福祉事業協会  
長野県宅老所・グループホーム連絡会  
長野県知的障がい福祉協会  
長野県児童福祉施設連盟  
長野県介護福祉士会  
長野県介護支援専門員協会  
長野県相談支援専門員協会  
長野県社会福祉協議会

長野県救護施設協議会  
長野県老人保健施設協議会  
長野県身体障害者施設協議会  
長野県社会福祉士会  
長野県精神保健福祉士協会  
長野県医療ソーシャルワーカー協会  
長野県看護協会  
長野県助産師会  
長野県保育連盟  
長野県栄養士会

**部会**

- ・ 令和元年2月に発足
- ・ 同年台風第19号災害に際して、長野県ふくしチーム（DWAT）を派遣
- ・ 長野県ふくしチーム（DWAT）の養成
- ・ 構成団体間の関係促進に取り組む

2

# 令和6年能登半島地震への対応経過

- 1月4日、長野県内に本部がある青年海外協力協会スタッフから、社会福祉法人佛子園の事業所(能登町の「日本海倶楽部」)への応援の相談
- 1月5日、石川県から全国の都道府県にDWAT派遣準備要請
- 1月6日～8日、全社協中央福祉支援センターに電話で照会したところ  
「DWAT派遣第1陣(1月分)に、長野県は含まれていない」  
「いまのところ、奥能登地域にDWAT派遣の予定はない」
- 1月8日、能登町の社会福祉法人佛子園に長野県災福ネット先遣隊出発
- 能登町の佛子園事業所、そして能登町から、避難所支援を依頼があり、DWAT制度派遣が実現するまでの間、独自派遣をスタート(1月14日～ 第1クール)



- 帰省中に被災した金沢市の介護福祉士が、避難所の介護に奮闘。  
「応援しない」選択肢はなかった。

3

## 石川県能登町支援の概況 1

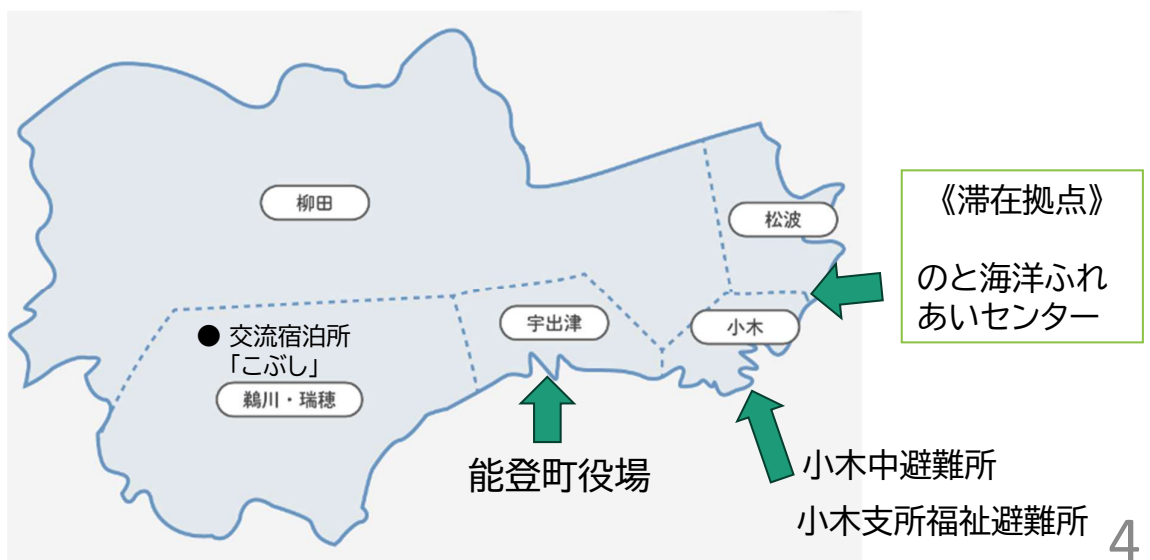


### 能登町の概況

人口 約15,000人  
高齢化率 50.4%

### 石川県内の死者数〔1月15日現在、抜粋〕

	避難者数	死者(うち関連死)
珠洲市	3,843人	99人(6人)
輪島市	7,611人	88人(3人)
能登町	2,016人	7人(5人)



4

全壊、半壊、一部破損  
あわせて5,000棟



能登町の入口付近、倒壊家屋



鶴川地区、古い町並みに「赤黄色紙」が続く



津波の被害があった地区（松波）

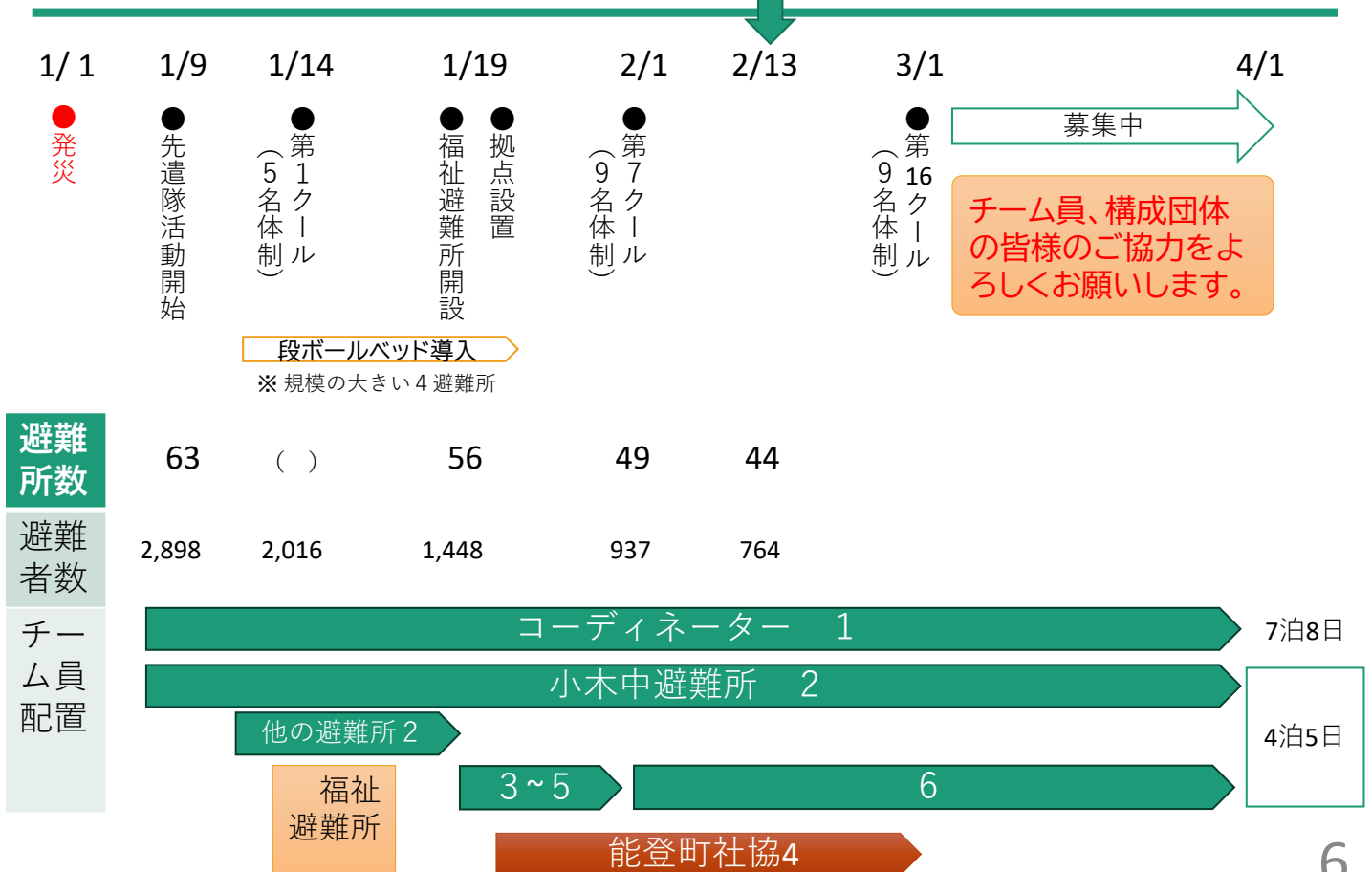


漁港への被害も深刻

5

## ふくしチームの派遣概要

先遣隊：延べ18名  
ふくしチーム：延べ216名



6

# 008 避難所の支援

## ① 避難所の環境整備



- 段ボールベッドの作り方を住民に伝える
- 段ボールベッド導入時、上下足の分離を実施してもらう
- 段ボールベッド導入後の、上下足の分離プロジェクト(土禁大作戦)

## ② 福祉アセスメント

広域避難についてイメージできない高齢者も多く、丁寧に情報を提供、意思決定を支援する



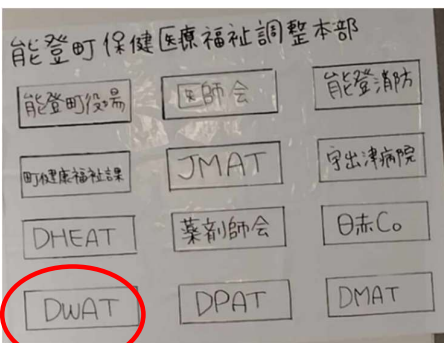
## ③ 体操、レク等



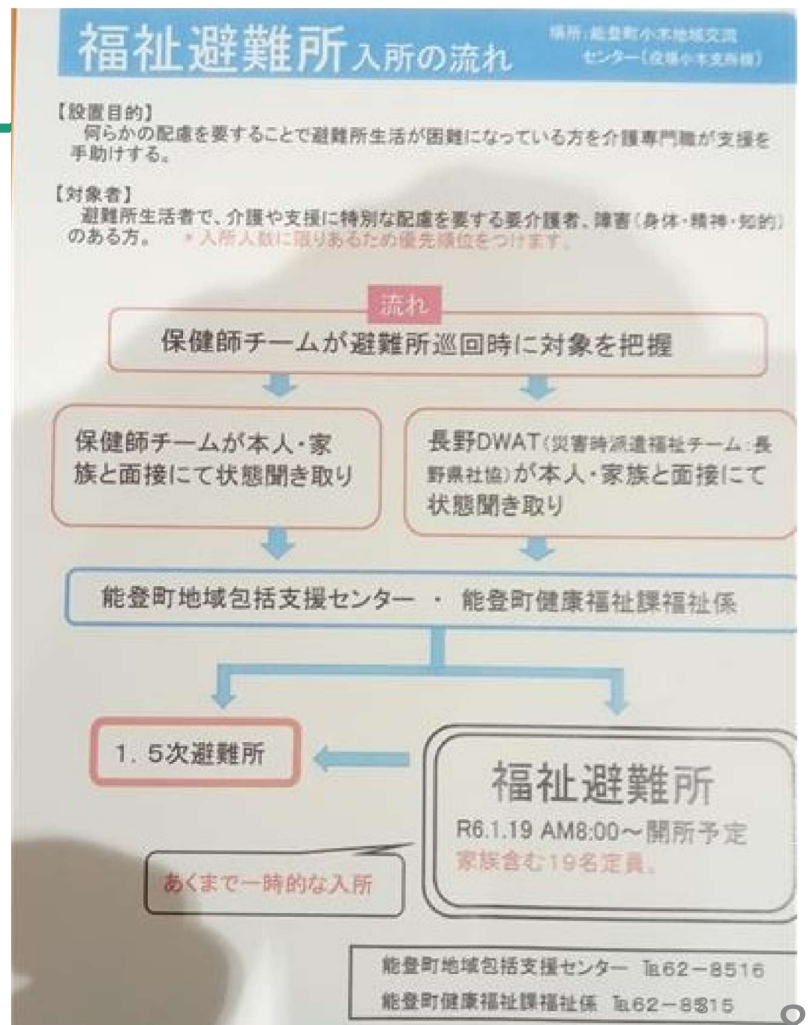
## ④ 車座集会への参加



# 保健医療福祉の連携



➤ 要援護者の受け皿がないことが課題に..





# 009 福祉避難所の設置、運営



- 1月12日 福祉避難所を新たに設置することを提案。了承。
- 1月13日 福祉施設の空きスペースを検討したが、感染症のため使用できず。
- 1月14日 小木地域交流センターに設置を決定。定員20名
- 1月15日 設営開始
- 1月19日 受け入れ開始  
日勤は小木デイサービスの方4名の応援。レク、入浴介助等



## 利用者の状況

- 2月14日現在、避難者12名（最大16名在籍）75歳～93歳 男性2名、女性10名
- これまでの退去者：7名
- 今後の退去先：自宅、施設、仮設住宅、親類宅等 となっていますが...

9

## チーム員の滞在環境



農家民宿「春蘭の里」

1 / 8 ~  
宿泊、食事、たまに風呂あり



- 1 / 20 ~ 支援先に近い、能登海洋ふれあいセンター
- トレーラーハウス（契約）
- キャンピングカー等（無償提供）× 3

自己完結型の体制  
を整備

10

- 水道の復旧がなかなか進まず、自宅での生活に移行するまで時間がかかっている。同時に地域の福祉事業所も再開はしたものの、入浴ができないなど、在宅サービスの提供体制が整うまで時間がかかるため、在宅介護のハードルが高い。
- 入所施設も大きな被害を受け、新たに受け入れる体制がとれないため、避難所から病院に救急搬送され状態低下した高齢者が、避難所での生活ができない場合、受け入れ先がない。
- 避難所にいる方で、自力で罹災証明の手続きができていない方もいる。また、その後の家の片づけや仮設住宅の申し込みもできない方あり、きめ細やかな支援を行う必要があるが、人員不足で進んでいない。
- 現在能登町にいる方は、地元での生活を望んでいるため、自宅が倒壊して戻れない方は仮設住宅を希望している。しかし建設には時間がかかり、避難所生活の長期化が予測される。
- 仕事と住居を失った方の今後の生活再建への伴奏支援が必要。  
など

## 私たちのねがい

---

- 奥能登の被災地にも、福祉の力が必要です。  
各県のDWATが力をあわせて支えていきましょう。
- 高齢化が進んだ地域では、避難所開設初期の段階から福祉の力が不可欠です。被災地のニーズに答えられるように、DWATの強化をはかっていきましょう。
- 自己完結型で活動できる災害派遣福祉チームを育てていくため、装備や訓練の充実を応援してください。

## 《支援方針》 信州から能登へ あたたかな福祉の力、ボランティアの力を

長野県災福ネット  
長野県社会福祉協議会

DWAT	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DWAT制度派遣要請に備えて、4名1チームの派遣を準備</li> </ul>
能登町支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 能登町からの依頼に基き、長野県災害派遣ふくしチームを派遣</li> <li>● 避難所支援、福祉避難所の開設・運営支援</li> <li>● トレーラーハウスを活用した自己完結型の活動体制</li> </ul>
構成団体間情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害福祉支援情報(毎週月曜日)</li> <li>● 長野県災福ネットセミナー(2/15、オンライン)</li> </ul>
災害ボランティアセンター運営支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社協災害ボランティア支援プロジェクト会議の派遣協力《能登町、輪島市》</li> <li>● 関プロ社協相互応援協定に基づく災害ボランティアセンター運営支援者(DSAT)派遣《中能登町》</li> <li>● 災害ボランティア活動の応援(情報発信、ボランティア活動助成等)</li> </ul>
災害特例貸付	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緊急小口資金の貸付業務に関わる応援派遣</li> </ul>

## 支援現場から報告

---

### ～ 長野県災福ネット構成団体 ～

○ 災害支援ナースの活動

長野県看護協会 石井絹子氏

○ 「1.5次避難所」での支援

長野県介護福祉士会 甲田孝子氏

○ 能登町「避難所」支援(長野県ふくしチーム)

大桑村社会福祉協議会 松谷 学氏

○ 能登町「福祉避難所」支援(長野県ふくしチーム)

賛育会豊野事業所 高橋哲也氏

## コメンテーター

---



**小早川 義貴 氏 (こはやかわ よしたか)**

**独立行政法人国立病院機構 本部 DMAT 事務局**

**災害医療専門職・福島復興支援室**

1976年千葉県生まれ。

2004年島根医科大学卒業。島根県立中央病院救命救急センター等を経て、2011年より国立病院機構災害医療センターにて災害医療に従事。

厚生労働省災害派遣医療チーム(DMAT)の教育・研修の他、現在は主に福島県の復興支援を行っている。2014年4月より、福島復興支援室勤務。

## コーディネーター

---



**石井 布紀子 氏 (いしい ふきこ)**

**特定非営利活動法人さくらネット 代表理事**

**長野県社協 防災福祉アドバイザー**

阪神・淡路大震災での被災体験をきっかけに災害支援に関わる。

研修講師や兵庫県、内閣府等の各種委員・アドバイザーを経て、現在、地域福祉の視点に立つ防災・減災の取組を推進。災害ボランティア活動支援プロジェクト会議や 1.17 防災未来賞ぼうさい甲子園の事務局を担う。

長野県社会福祉協議会の防災福祉アドバイザー。

## 災害支援ナース派遣状況

公益社団法人長野県看護協会 専務理事 石井絹子

### 1. 災害支援ナースとは

看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供できる役割を担う看護職のこと。災害支援ナース養成研修修了者。

(2024年4月より派遣体制が変更される。医療機関に勤務する看護職は「災害・感染症医療従事者」として国に登録される)

### 2. 派遣の流れ

日本看護協会 危機管理規定に基づき、都道府県看護協会に登録されている災害支援ナースを派遣する。(2024年度より派遣の流れは変わる)

### 3. 派遣の準備から派遣後

<日本看護協会 危機管理室> 都道府県看護協会に派遣依頼



<長野県看護協会> 災害支援ナース登録者の所属施設看護管理者および所属なしの登録者に依頼メール送信 [63施設、個人16人]



<登録医療機関 等> 派遣メンバー調整



<長野県看護協会> 回答をもとに派遣調整 [回答：29施設、個人2人]

派遣スケジュール作成・派遣前オリエンテーション・防災リュックの受け渡し  
日本看護協会との連絡報告  
派遣者所属施設との連絡



<医療機関> 派遣



<長野県看護協会・医療機関・日本看護協会> 派遣中の連絡報告

\* 派遣後の支援ナースへのフォロー：長野県看護協会主催 振り返りの会

### 4. 派遣実績:2024/1/12~2/11 継続中

- 1派遣あたり：3泊4日、1班4人 1/24から2人
- 派遣人数：28人 15施設より、個人2人

### 5. 活動場所

- 避難所：能登町立小木中学校、輪島ふれあい健康センター
- 1.5次避難所：いしかわ総合スポーツセンター

## 6. 活動内容

- 避難者の体調確認 巡視
- 隔離患者対応・状態観察（夜間も）
- バイタルサインチェック、処置介助
- 有症状者の引継ぎ
- 認知症患者の見守り
- DVT 予防体操・フレイル体操・ラジオ体操
- 隔離場所のゾーニング・作成と整備・撤去
- 要介助者の生活介助、足浴
- 他団体とのミーティング・情報交換
- 救急患者・福祉避難所への搬送の準備介助
- 避難者へのアンケートで聞き取り、リスト作成
- 環境整備・トイレ清掃・ゴミ捨て・衛生管理の掲示
- 支援物資の搬入補助・仕分け・分配
- 非難所撤退後の資料作成（医療対応・避難者向け等）

## 7. 支援者の宿泊・生活環境

- 宿泊場所：避難所内のスペースで寝袋と段ボールベッド
- 生活環境：避難者と同様。 水・食料は持参
- 移動に係る宿泊場所及び金沢駅から活動場所の移動：日本看護協会の手配あり
- 1.5次避難所の宿泊場所は日本看護協会の手配でホテル

# 活動経過報告 (1.5次避難所支援)

長野県介護福祉士会  
副会長 甲田 孝子

## 能登半島地震に係る被災者支援開始 (日本介護福祉士会からの派遣依頼)

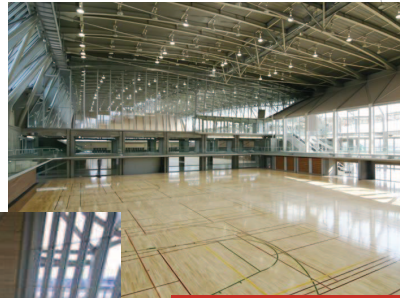
- 支援開始日：1月13日～
- 派遣場所：1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）
- 支援内容：1.5次避難所に受け入れた者のうち、高齢者等の介護を必要とする者への対応（40床）  
（食事介助・口腔ケア・排泄介助・歩行支援  
・車椅子支援・コール対応・安否確認 等）
- 支援時間：日勤（6：00～19：00）  
夜勤（18：00～翌7：00）



# いしかわ総合スポーツセンター



メインアリーナ

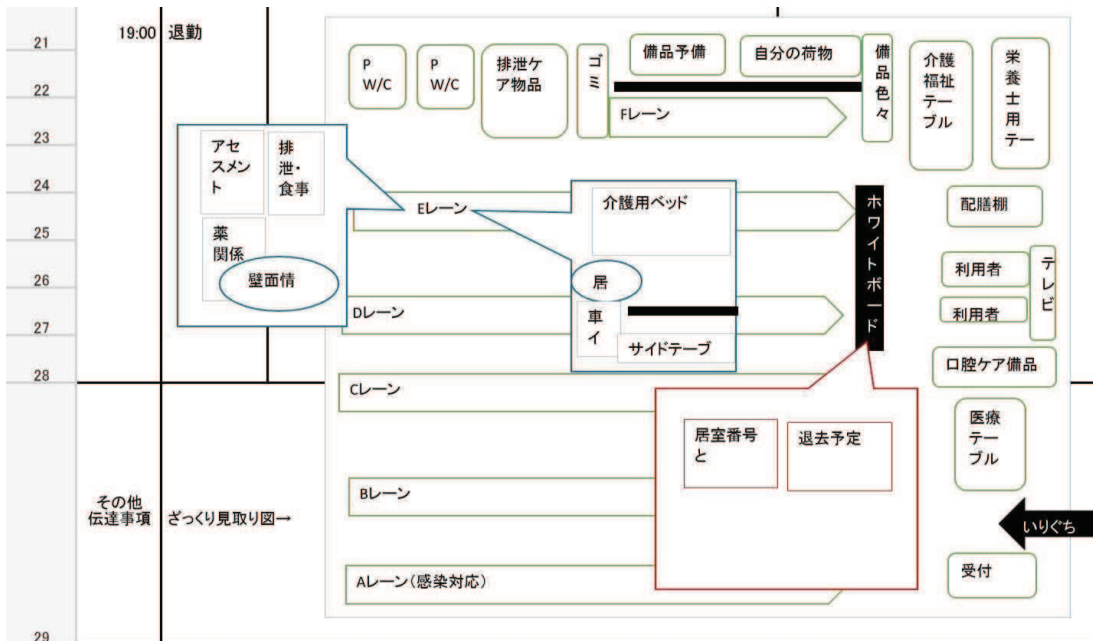


サブアリーナ



マルチパーパス

## マルチパーパスルームの見取り図



## 支援開始時の状況

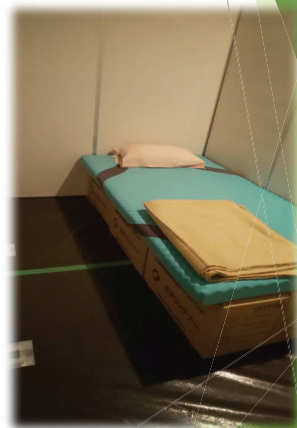
- 利用者数は、25名ほど
- 日勤：5名（県外介護福祉士）、2～3名（県内介護福祉士）  
夜勤：2名（県外介護福祉士）、2名（県内介護福祉士）
- DMAT常駐、看護師チーム、日本栄養士会からの食事準備、阪急交通社による必要物品の調達
- 支援活動が始まったばかりだったので、介護だけでなくどの職種もその場で状況判断しながらルールを作っている状態。  
主体的な活動が必須。（リーダーという役割のスタッフはいた）  
利用者さんに対しては、地震そのものだけでなく、その後の環境の変化や今後への不安感もある様子だった。  
重度の認知症の方はいらっしゃらなかったが、不安が強かったので普段のケアと同様に、傾聴し受け止めるケアを大事におこなった。

## 支援開始時の状況②

- 食事・排泄・移動という基本的な支援が主におこなう支援  
環境が整っていない中での支援→試行錯誤しながら他職種とも連携して活動することが重要だった。
- 発熱→嘔吐→下痢という過程で感染症が発生  
スタッフは手洗いが頻繁にできない  
最低限の感染予防で対応（防護服、マスク、手袋→処理の仕方）  
⇒日頃の実践が役に立てた。
- 夜間、介護は4名体制、他職種や阪急交通社の方も常駐しており不安はなく、相談しながら対応できた。
- 体位変換時使用するスライディングシートがなく、ごみ袋をシート代わりにして対応した。

## 約1ヶ月後の状況

- 利用者数は、13～17名ほど
- 日勤：15名  
夜勤：5名（休憩2～3時間とれるようになった）
- 発熱、嘔吐、下痢、コロナ陽性等の感染症が蔓延している
- 看取りレベルの方の受け入れもあった



## 1ヶ月後の状況②

- 2月8日より、スポーツセンター内のシャワー室が使用できるようになり4名のシャワー浴の支援を行った
- 2月3日の節分の日には、介護福祉士が鬼に扮して豆まきをおこなったり誕生日の方がいらした際には誕生日カードを作ってお祝いするなど、状況によりレクリエーション活動も小規模で行った。
- 利用者くスタッフの状況となり、となりのサブアリーナへのヘルプ要員として派遣

## 現在検討されていること

- 今後、DMATの撤退に伴い、バイタル測定など介護福祉士にできることなど業務分担の検討がされ始めている
- サブアリーナの利用者が70名  
今後、サブアリーナとマルチパーパスを一緒にしていく  
医療的処置者の受け入れをしていく等の意見が出ているが  
決まっていない状況。
- 1.5次避難所でありながら長期滞在者が増えてきている。  
しばらくは施設的要素の避難所として機能させる。  
閉鎖の予定は現在のところ全く未定である。

## 長野県介護福祉士会として

- 今後も引き続き、派遣を行っていく
- 日々状況が変化していますが、介護福祉士として基本的な支援を丁寧におこなっていきたい
- 他職種と連携し、観察ポイントを共有していく
- 介護福祉士だからこそできたことを会として共有する

## 能登町 避難所 支援活動報告

社会福祉法人大桑村社会福祉協議会 次長 松谷 学

### 第2クールのミッション（1月17日～21日）

- 1 避難所マップ及び被災者情報の収集
- 2 福祉避難所の立ち上げ準備



### 避難所マップの作成

区画ごとに氏名・年齢、連絡先、既往症を記載し、DMAT/DWATで共有する

A1 氏名・年齢 連絡先 既往症	B1 氏名・年齢 連絡先 既往症	C1 氏名・年齢 連絡先 既往症	D1 氏名・年齢 連絡先 既往症	E1 氏名・年齢 連絡先 既往症	F1 氏名・年齢 連絡先 既往症
A2 氏名・年齢 連絡先 既往症	B2 氏名・年齢 連絡先 既往症	C2 氏名・年齢 連絡先 既往症	D2 氏名・年齢 連絡先 既往症	E2 氏名・年齢 連絡先 既往症	F2 氏名・年齢 連絡先 既往症
A3 氏名・年齢 連絡先 既往症	B3 氏名・年齢 連絡先 既往症	C3 氏名・年齢 連絡先 既往症	D3 氏名・年齢 連絡先 既往症	E3 氏名・年齢 連絡先 既往症	F3 氏名・年齢 連絡先 既往症
A4 氏名・年齢 連絡先 既往症	B4 氏名・年齢 連絡先 既往症	C4 氏名・年齢 連絡先 既往症	D4 氏名・年齢 連絡先 既往症	E4 氏名・年齢 連絡先 既往症	F4 氏名・年齢 連絡先 既往症
A5 氏名・年齢 連絡先 既往症	B5 氏名・年齢 連絡先 既往症	C5 氏名・年齢 連絡先 既往症	D5 氏名・年齢 連絡先 既往症	E5 氏名・年齢 連絡先 既往症	F5 氏名・年齢 連絡先 既往症
A6 氏名・年齢 連絡先 既往症	B6 氏名・年齢 連絡先 既往症	C6 氏名・年齢 連絡先 既往症	D6 氏名・年齢 連絡先 既往症	E6 氏名・年齢 連絡先 既往症	F6 氏名・年齢 連絡先 既往症

情報共有シート

氏名：	年齢：10代・20代・
移動方法：歩行・杖・車イス	持病：なし・高血圧・

該当項目に○をお願いします。

- いつも飲んでいるお薬はありますか？ （有・無）  
◇ 飲み薬はどれくらい残っていますか？ （有・無）
- からだに不調はありますか？ （有・無）  
◇ それはどのような症状ですか？ （有・無）
- 今後の避難先は決まっていますか？ （はい・いいえ）  
◇ 「はい」と回答された方へ それはどこですか？

以下スタッフ MEMO 欄 緊急連絡先： 様

### 避難所支援を通じて考えたこと

- 派遣された避難所で協力できるチームを探す
- 常に避難所の中にあるDWATの“強み”を意識する
- 「情報弱者」に配慮して、優先的に専門職につなげていく

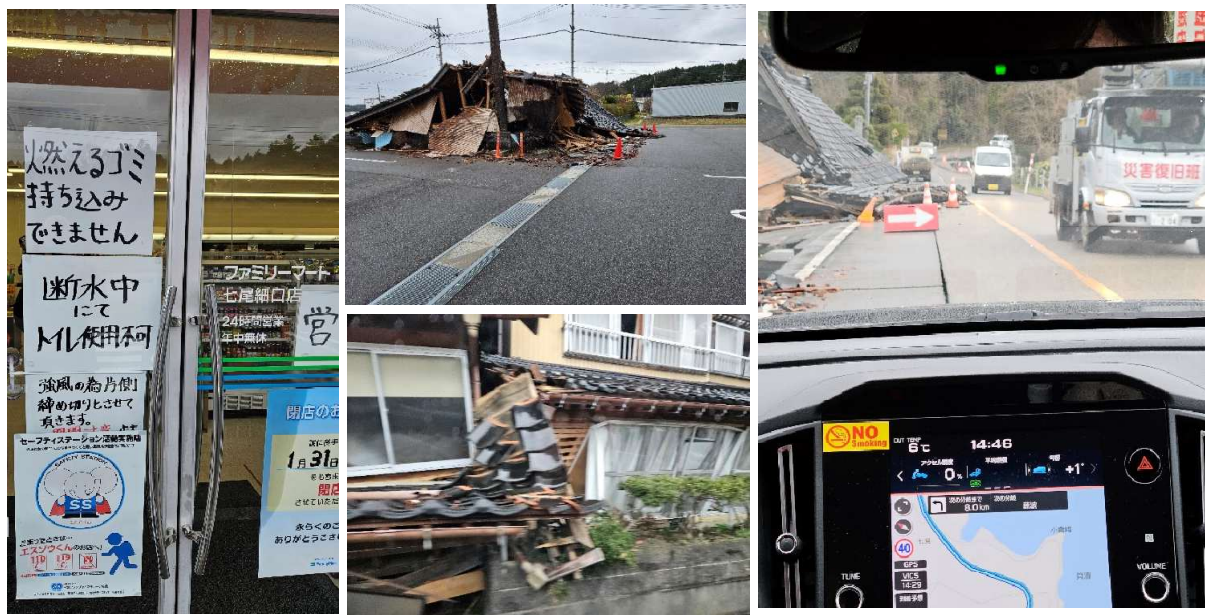
## 能登町 福祉避難所 支援活動報告

社会福祉法人賛育会 介護医療院とよの 介護係長 高橋哲也

### 経緯

1月18日、能登町派遣について上司から相談があり、私は1月20日から27日参加しました。福祉避難所の運営について、特に災福ネットから賛育会に応援依頼があったとのことでした。

私自身、職場である豊野事業所が2019年の台風19号の被災経験し、その時に多くの方々に支援していただいた事への恩返しの気持ち、また熊本球磨村の大雨災害の支援に賛育会として参加させてもらった経験が生かせればという思い、自分自身が「誰かのために」という思いでいたこともあったので支援に参加させていただくことになりました。



福祉避難所は前日に開設したばかりで私が1月20日に到着した際は福祉避難所には4名（認知症の方1名と1名の要介護者と家族2名）の方が福祉避難所に避難されていました。

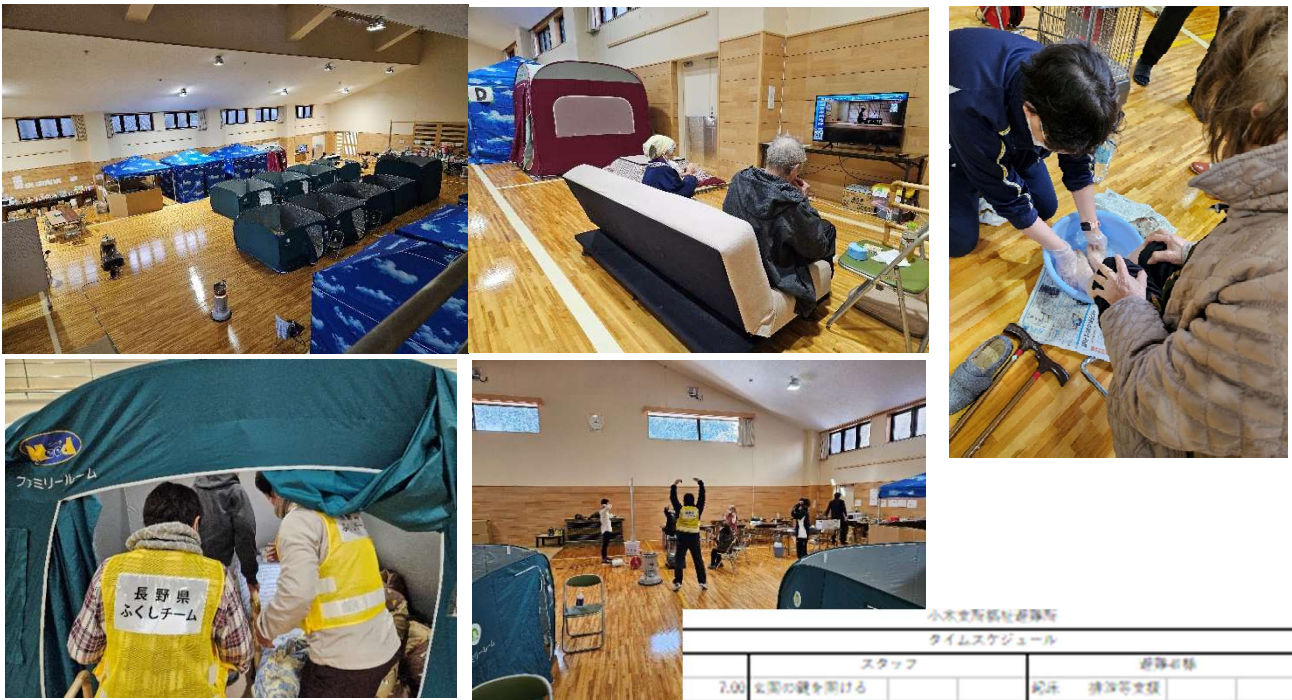
開設したばかりで避難所の中身についてコーディネーターの春日様や橋本様に相談し、また、一緒のクルールで派遣されたメンバーの協力を得ながら進めていきました。

### 活動内容

#### ① 福祉避難所の1日の流れ(大まかなタイムスケジュール)の作成

昼間は福祉避難所の近くの小木デイサービス職員も一緒に支援してくれました（小木デイサービスも被災の影響を受け、サービスが行えない状況）日中の避難者の日課は小木デイサービスの日課も取り入れながら行いました。ラジオ体操や清拭・更衣、足浴、自衛隊風呂の送迎なども小木デイサービスの方々が協力してくれました。

夜間は長野県ふくしチームスタッフ2名体制で避難者の支援をおこなう体制をとりました。派遣される長野県ふくしチームで介護の経験がある方を中心に体制を組んでいました。



② 福祉避難所へ避難されてくる方また帰られる方の対応（長野県ぶくしチームのコーディネーターと連携して）

福祉避難所の出入りは長野県ぶくしチームのコーディネーターが中心となり、能登町包括と連携し行っていました。

③ 緊急時の対応・連絡体制の構築

福祉避難所に医療の専門スタッフがいなかったため、体調面の心配事、薬の管理、緊急時の対策も検討しました。能登町に DMAT（災害時医療チーム）が在中し、福祉避難所の巡回をしていましたが、撤退するチームも出てきていました。近所の小木クリニック院長瀬島医師が積極的に関わりを持って協力していただき相談に乗って一緒に考えてもらえてとても心強かったです。またコーディネーターの働きかけでジャパンハート（国際医療 NGO 団体）の協力もあって、福祉避難所の看護師の常駐や緊急時の体制もつくることができました。

④ その他

避難所に 嘔吐等され場合の処理セットの設置、服薬管理表の作成、情報共有するための連絡ノートの設置等、長野県ぶくしチームのメンバーの力を借りて福祉避難所が少しでも安心してすごしてもらえる場所として機能できるような体制作りをし、次のクールに引き継ぐことができたと思います。

小木支所福祉避難所  
タイムスケジュール

	スタッフ	避難者様
7:00	玄関の鍵を開ける	記録 巡回等支援
	物資給内 点検	警備・点検
	バイタルチェック	朝食 食事支援 口腔ケア
8:00		
8:45	申し送り	
9:00	活動展開を支援する（避難所リーダー）	作業
	ゴミ捨て	清拭・要安・警備
	水の供給（支所の給水車から）	点検
	廊下 玄関掃除 洗面所清掃	
10:00	午寄り茶会（AM）	
	灯油給油（ストーブ）	
11:00	休憩	
		廊下作業
12:00	スタッフ週会休憩	昼食 食事支援 口腔ケア
		お昼寝
13:00	休憩	入浴支援（福祉避難所員が実施）
14:00		レク・作業・点検
15:00	休憩	おやつ 水分供給
		（毎週木曜日小木クリニックは休）
16:00	午寄り茶会（PM）	
16:45	休憩	点検等
	後身町保健所を退へ戻る必要人数確認 （リーダーが担当 0758-82-8516）	
16:45	申し送り	
17:00	灯油給油（ストーブ）	
18:00		
19:00		
20:00	入口掃除	
21:00	点検	

## 私個人の感想

- ・ 今回、職場の代表としてもそうですが長野県ふくしチーム、長野県を代表するチームでの活動という意識を持ち、大きなプレッシャーでしたが、自分が台風19号で被災した経験や、熊本球磨村大雨災害支援を経験していたことを活かすことができ、自分の役割を今出来ることを果たしてることができたと思います。
- ・ 移動日も含め7日間だったが改めて水が普通に使用できることのありがたみを感じた。お風呂に1週間は入れない施設利用者の気持ち、お風呂に入れるリラックス効果を体験することができた。(施設で簡単に入浴をあきらめたくない)
- ・ 私が支援に入ったのは7日間でしたが、被災された方はもうすでに半月以上もその生活をされていて、さらには今後のことについて不安も絶えない状況の中で生活されていることを想像すると計り知れない精神的な疲労もあるのだろうと思いました。災害支援は様々な形で今後も継続が必要だと思いました。豊野の台風災害も熊本の大雨災害もそうでしたが、復興までにかかり時間がかかることだと思いました。
- ・ 福祉避難所の避難者や福祉避難所の支援を手伝ってくれていた小木ダイサービスの職員、一緒に長野県ふくしチームで活動した方から感謝の言葉をいただき、自分の役目を果たせたと思い、ホッとしました。
- ・ 支援から帰ってからの、自分の思考・心の切り替えが難しいと感じました。
- ・ 今回の支援活動を通じて、長野県ふくしチームの方々、他職種災害支援チームの方々と一緒に支援活動を行うことができたことは、自分の思っている「誰かのために」実践できたよい経験となりました。
- ・ 能登町の人や長野県ふくしチーム、様々な人々と出会えたこともよい経験をさせてもらったと思います。





## 信州から能登へ 私たちにできる支援を考える

---

○ 動画メッセージ「長野の皆さん 引続きの応援を！」

- ・石川県能登町健康福祉課 課長補佐 千場かおり氏

○ 息の長い支援を！

- ・鈴木よし子氏(長野県介護福祉士会会長、ふくしチーム員)
- ・勝山淳一氏(長野市社会事業協会、ふくしチーム員)
- ・山崎博之 (長野県社会福祉協議会、DSAT担当)

# 奥能登入浴支援

## プロジェクト速報

No.5 2024.2.10 11:00

編集ラインネーム：むさし

### 2月9日 PM 報告

はっち (15:59)



ホールではお話しを聞きながら和やかなひと時を過ごして頂きました。



よし子 (16:14)



入浴支援終わりました。一般浴の支援です。女性6名、男性1名の7名です。鈴木が中介助、斎藤が

外介助、松木が誘導と見守りです。認知症状がある方がほとんどでしたが、ゆっくり、お話をしながら入ることが出来ました。身体的には一部支援レベルです。適切な誘導のお偈で、皆さん心地よく入れたと思います。のんびり入浴は久しぶりでした。皆さんからの「気持ちいいなー」の言葉と、嬉しそうな表情を見ていると、支援に来て良かったと心から思いました。大分県から送られて来たキムチも職員が喜んでくださいました。



むさし (16:22)

皆さんお疲れ様です。第2クルールの皆さんを中心にした速報 No.4 を作成しましたので、夜でもご笑覧ください😊

むさし (22:02)

皆さん本日は大変お疲れ様でした。明日のためにゆっくりお休みください。

お休みなさい



### 2月10日 AM 報告

あやっこ (8:24)

おはようございます😊

昨日は一日おつかれさまでした！

今日は少し寒そうですね☹️

皆さん、体調はいかがですか？

昨夜は眠れましたでしょうか。

つばさ (8:38)



めちゃ寒いです！！

みなさん体調バッチリです！！

今からゆうかりの郷奥原 に入浴支援向かいます！

雨もなかなか降っているので、気をつけて行ってきます！

むさし (8:40)

おはようございます。今日も元気に頑張ってください

Shinji (9:25)

おはようございます😊 2クールチーム現地活動2日目です。

本日も『ゆうかりの郷 奥原』にて入浴介助支援に入ります。

ダンプカーで水の調達も行います。

午後は個人宅へ入浴支援に入ります。1クール目で支援した同じお宅のようです。

早朝移動していま現地に到着しました。

よし子 (9:29)

これから、ゆうかりの郷奥原に入浴支援に出かけます。

入浴者は、男性3名の予定。ダンプ、入浴者、ワゴン車でゆうかりの郷奥原に

いく予定。朝は、朝焼けが素晴らしく、気持ち良いスタートでしたが、雨降りになりました。

ゆうかりの郷奥原に到着。どういわけか晴れています



## 令和6年能登半島地震

## 長野県ふくしチーム（DWA T）派遣（3月分）概要

## 1 派遣の経過

- 1月4日、長野県内に本部がある青年海外協力協会から社会福祉法人佛子園の事業所応援の相談
- 1月5日、厚生労働省及び石川県から長野県にDWA T派遣準備要請。本会から、全社協中央福祉支援センターに照会したところ、DWA T派遣（1月分）では長野県に要請なしとのこと
- 1月8日、能登町の社会福祉法人佛子園に長野県災福ネット先遣隊出発
- 1月9日、能登町の佛子園事業所、そして能登町から依頼に基づき、DWA T制度派遣が実現するまでの間、長野県災福ネットの独自派遣をスタート

## 2 活動内容

- 活動場所：能登町内の避難所支援（小木中学校避難所ほか） 避難者 約100名  
能登町の福祉避難所（小木支所） 避難者 10～15名
- 留意事項：寒さが厳しいこと、また上下水道が使えない環境での支援活動となります。感染症が発生している避難所もあります。福祉避難所の夜勤をお願いする場合があります。（現地コーディネーターがシフト調整）

## 3 募集概要

- チーム員 1クール 5日間（移動日2日+活動日3日）

クール	期 間（第3募集）	クール	期 間（第3募集）
⑯	2月28日（水）～3月3日（日）<8名>	㉓	3月17日（日）～21日（木）<8名>
⑰	3月2日（土）～6日（水）<8名>	㉔	3月20日（水）～24日（日）<8名>
⑱	3月5日（火）～9日（土）<8名>	㉕	3月23日（土）～27日（水）<8名>
⑲	3月8日（金）～12日（火）<8名>	㉖	3月26日（火）～30日（土）<8名>
㉑	3月11日（月）～15日（金）<8名>		
㉒	3月14日（木）～18日（月）<8名>		

## 4 応募方法

- 下記 URL より参加可能な日程等を登録してください。
- 募集締切：各クール 1週間前
- 事務局で日程調整後、改めて派遣依頼のご連絡をいたします。  
なお、定員充足によりお断りする場合があります。

派遣応募フォーム↓（Google フォーム）

<https://forms.gle/LKcDPCngGgg4YPfk9>

募集フォーム QR→



※派遣に関する必要な情報（所属・連絡先・顔写真・免許証など）の入力が必須となります。

## 5 派遣詳細

- 移動：長野県社協より出発 県社協車両使用（県社協発 9:00 能登町着 15:00 予定）
- 宿泊：トレーラーハウス（のと海洋ふれあいセンター（能登町越坂 3-47））
- 派遣決定者には、準備品を含めた詳細を連絡します。

【災福ネット事務局】長野県社会福祉協議会内 担当：長峰夏樹、丸山沙弥、阿部敬子  
TEL：026-226-1882 FAX：026-227-0137 E-mail：[vcenter@nsyakyu.or.jp](mailto:vcenter@nsyakyu.or.jp)



チーム派遣のきっかけとなった、金沢の介護福祉士、北村純子さん。

2月14日、能登町小木中避難所をたずねてくれました。  
信州から能登へ、あたたかな福祉支援を、引き続きお届け  
しましょう！

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	公益社団法人 長野県介護福祉士会
代表者名	鈴木 よし子

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

- ・1/13 から1.5次避難所であるいしかわ総合スポーツセンターへ介護職員を派遣している。1月末時点で当会会員からは10名派遣しており、2月以降も引き続き介護職ボランティアを派遣していく。
- ・能登町における災福ネットの活動についても当会会員を派遣している。もともとスポーツセンターへの活動申し込みの方で5日間連続での活動が可能だった方にはこちらに参加いただくよう調整。
- ・2/1から始まった奥能登入浴支援プロジェクトでは県社協含はじめ市町村社協と協力し、介助の必要な方の入浴支援活動を行っている。

## 2 1以外の支援活動について

- ・オムツ等の寄付を募って県社協のあった介護プロジェクトに協力。
- ・義援金についても会から寄付することを検討中

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	一般社団法人 長野県介護支援専門員協会
代表者名	小林 広美

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

- ・金沢市の1.5次避難所「いしかわ総合スポーツセンター」にて、介護が必要な高齢被災者のスクリーニング、および2次避難先の施設マッチング作業の支援を実施中。今後は他団体と協働チームを組織し、6市町（珠洲市、輪島市、七尾市、能登町、志賀町、穴水町）の地域アセスメントに移行予定。
- ・2次避難所となっている地元の特別養護老人ホームや介護老人保健施設が満床で受入が困難であることに加え、高齢者が縁のない県外の施設に身を寄せることは負担が大きく、本人の意思をどう尊重しマッチングしていくのが大きな課題となっている。

## 2 1以外の支援活動について

- ・日本介護支援専門員協会を通して災害支援活動基金を寄付。  
今後の研修会等で募金活動を実施予定。

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	長野県栄養士会
代表者名	馬島 園子

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

1月9日、日本栄養士会より長野県栄養士会に石川県への栄養・食生活支援要請が発出  
JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）長野として1チーム3人、活動期間を3日間として2月末まで4チームの派遣を行う。

## ① 1月13日～17日 3人派遣

金沢市内石川県栄養士会本部に設置した特殊栄養食品ステーションから七尾市サテライト及び志賀町役場や病院等へ支援栄養食品の搬入を行う。他県 DAT リーダーと共に活動する。宿泊は日本栄養士会が七尾市内に確保

## ② 1月27日～31日 4人派遣

3人は特殊栄養食品を七尾市サテライトから輪島市、志賀町、珠洲市への支援栄養食品搬入及び珠洲市からの要請による避難所巡回を行い、食品の提供、食事摂取状況確認、困りごとの解消など他県リーダーと共に栄養・食生活支援を行う。

1人は金沢市内1.5次避難所のスポーツセンターにて石川県栄養士会員と他県リーダーとともに高齢者施設から避難している100名程の高齢者へ嚙下状態に合わせた3食の食事提供を行う。

能登半島活動者は日本栄養士会が七尾市能登島に1棟貸し切っている素泊まり宿、金沢市内活動者は日本栄養士会が確保している金沢市内ホテルに宿泊

## ③ さらに2/9～2/13 3名、2/21～2/25 3名の派遣を予定

活動内容は、石川県栄養士会本部からの指示により変動

## ④ 支援要請期間が3月末まで延長となり、支援者の募集を継続中

## 2 1以外の支援活動について

日本栄養士会への支援活動を支える資金の援助を長野県栄養士会として支出予定  
石川県への義援金支出は会員個々に実施

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	(一社)長野県保育連盟
代表者名	会長 海野 暁光

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

## 2 1以外の支援活動について

社会福祉法人全国保育協議会の、令和6年度能登半島地震にかかる保育三団体被災地支援募金への協力（お願い）に対し、保育連盟として下記により実施

記

募金額 100,000円

振込日 令和6年1月25日

振込先 保育三団体被災地支援募金  
三菱UFJ銀行 麴町支店



## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	一般社団法人長野県知的障がい福祉協会
代表者名	会長 宮下 智

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会からの要請を受け、「長野県ふくしチーム（DWAT）派遣の追加募集」について会員施設へメールにて協力を依頼。

その他、国・県・関係団体等からの要請待ち。

## 2 1以外の支援活動について

公益財団法人日本知的障害者福祉協会からの要請を受け、会員施設に義援金への協力を依頼。

【第1期】募集期間：1/15～2/9 送金日：2月下旬予定

【第2期】第1期締め切り後、第2期を予定

その他、国・県・関係団体等からの要請待ち。

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	一般財団法人 長野県児童福祉施設連盟
代表者名	会長 川瀬 勝敏

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

## 2 1以外の支援活動について

長野県児童福祉施設連盟として、  
義援金（連盟各施設＋会員＝248,000円）送金

## 令和6年能登半島地震における支援状況報告

団体名	長野県社会福祉法人経営者協議会
代表者名	会長 佐藤 正雄

## 1 人的支援について（石川県、富山県、新潟県）

## 2 1以外の支援活動について

○ 全国経営協をはじめ全社協の社会福祉法人・施設関係協議会で構成される社会福祉施設協議会連絡会（委員長：全国経営協理事長）で、令和6年能登半島地震にて被災した福祉施設への義援金を募集→長野県経営協会員へ協力依頼

○ 全国経営協にて全社協の災害福祉支援ネットワーク中央センター、また施設関係種別協議会等との連携のもと被災法人に対し、応援職員の派遣等の人的支援や物資提供等の物的支援などを行うための財源として会員法人に「特別年会費」の納入を協力依頼→長野県会員へ協力依頼

# 令和6年能登半島地震支援 能登町災害ボランティアセンターについて

1. 能登町災害ボランティアセンターでも、石川県ボラバス及び地元ボランティアによる支援活動が始まっています。
2. 災害廃棄物の受入れが始まり、住民の片づけ支援ニーズが高まっており、人手や軽トラが圧倒的に足りない状況があります。



**地震が発生したごみ（災害ごみ）の出し方・仮置場のご案内**

2月5日から、地震が発生した「災害ごみ」の処理方法がお知らせされます。ごみ袋の購入、センターへの持ち入り、搬送により搬送できないごみも処理の申し込みができます。

**受付場所**  
能登町立公民館、柳田地区福祉センター、内浦地区運動公園第3駐車場

**受付時間**  
2月5日 受付から持ち込み可 9時～15時（18:00閉）

**受付内容**  
① 家電リサイクル品  
② 家具（小家電含む）  
③ ガラス・陶磁器  
④ 瓦  
⑤ コンクリート  
⑥ 可燃性廃棄物  
⑦ 資源物



## 能登町災害ボランティアセンター

● 能登町

● 金沢市

**能登町の概況**

人口	約15,000人
高齢化率	50.4%
世帯数	6,220世帯

**石川県内の被害概況 [1月15日時点、抜粋]**

	避難者数	死者(うち関連死)
珠洲市	3,843人	99人(6人)
輪島市	7,611人	88人(3人)
能登町	2,016人	7人(5人)

● 能登町社協本所

● 社協支所

● 交流宿泊所「こぶし」

● 能登町役場社協支所

● 小中避難所

● 小木支所福祉避難所

《滞在拠点》の海洋ふれあいセンター

<内浦：白丸>

<能都：鵜川>